

竹田英司会員が委員を務める有田工業高校学校運営協議会を取材

竹田英司会員（長崎県立大学）が委員を務める佐賀県立有田工業高校学校運営協議会の第4回会合が2022年12月20日（火）に開催されました。有田工業高校が「SAGA コラボレーション・スクール」重点校に指定されたことから、コミュニケーション・スクール制度を導入し、この協議会が立ち上げられました。佐賀県での別名「学校魅力強化委員会」と称され、形だけの委員会ではなく実働の伴う委員会です。メンバーも高等学校の担当の中西美香先生が1年間分の佐賀新聞を調査し、有田で活躍している人たちや学校と関わりがあった人たちの名前をピックアップしてメンバーを構成しました。大学教員だけでなく、地元の有名企業の経営者、NPOの代表者、地域住民、行政、メディアの方など多彩でした。

この日の会議の特徴は、生徒会長を含めた生徒会の生徒（3年生）8名が協議会のメンバーとして参加したことです。彼らは委員のさまざまな質問に答えました。学校の良い点、改善点、有田の町の良いところ、気づいたところが尋ねられ、生徒たちがそれぞれ答えていました。

竹田会員は、それぞれの学科（セラミック科、デザイン科、電気科、機械科）で身に付けたことを尋ねました。デザイン科の生徒は、「1年生で平面のデザインを学び、2年生でデジタルを学んだり焼き物のデザインを学び、3年生で立体の焼き物を作りました」とまさに教育課程が見える化する模範解答をしました。もう一人のデザイン科の生徒は「クライアントからの依頼に基づき制作作製するので実践的な実習を経験できた」と話しました。また、竹



田会員は「よそで有田工業高校や有田について尋ねられた時一言でどのように説明していますか」と尋ねました。学校や有田の町について「2022年の春と夏に甲子園へ出た」、「陶器で有名なまち」、「佐賀県より有田の方が有名でびっくりした」「有田焼のうつつわで提供してくれる飲食店が多い」などを回答していました。

後半は今後の学校の取り組み、地域に関する取り組みが話し合われ、委員の立場からのコメント、アドバイスが寄せられました。2007年度から始まった「有工ふるさと検定」という学校独自の取組も紹介され、町内で唯一の高校として、地域学習にもしっかりと取り組んでいることがわかりました。

この協議会は年6回開催されます。形式的な会議ではなく、まさに学校の魅力と地域の活性化を強化するための委員会であることを実感しました。

